

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300561		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野いちご式番館	ユニット名	
所在地	福岡県 八女市 新庄 567番地1		
自己評価作成日	平成26年7月2日	評価結果市町村受理日	平成26年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成26年8月4日	評価確定日	平成26年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に恵まれ、地域に、家族に、そして利用者、家族に支えられたグループホームだと思います。地域に貢献し、利用者、家族が安心していただけるようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺に田畑が広がる“グループホーム野いちご式番館”は1階建てである。天井も高く、建物内は木の温もりを感じる事ができ、ご利用者が車いすを自走し、ご自分の意志で移動できる環境が作られている。家族からも「できるだけ自分の足で歩いてほしい」などの要望が聞かれ、日々の生活リハビリに努めている。ホーム周辺をお散歩する時には、地域の方から「元氣ね」と声をかけて下さり、地元の“よど祭り”や“八幡土曜余市”でも、知り合いの方とお会いする機会が作られている。開設以来、ホーム長を中心に地域連携に努めてこられた成果は着実に表れており、地域の方からも、「何かあったら来るばい！」と言う温かいお言葉を頂いている。職員のケア技術の向上も目指しており、ケアセラピーの資格を取得した職員もおられる。業務内容の改善も行い、日曜日は“ゆとりの時間”として、ご利用者とゆっくり過ごす時間が作られた。今後も、職員の人員体制を確保しながら、更なるチームワークの強化を続けていく予定にしている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『『今』を大切に』という基本理念に基づいて、日常のケア、申し送り、ミーティング、職員会議を通して、その都度共有できるようにしている。	理念にある「自分らしく自由な」生活が送れるように、生活リハビリを取り入れ、少しでも自立した生活が維持できるように努めている。「少人数での共同生活を楽しく支援します」という理念も大切に、毎月10日20日30日は『おもてなしの日』として、言葉遣い等への意識強化が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な地域行事に参加し、その中で交流を継続している。野菜をいただいたり、古新聞をいただいたりしている。	26年度は、小学校の運動会を初めて見学する事ができた。町内会の旅行や道路愛護には職員が参加し、“八幡よかとこ会”では、野いちご新聞やご利用者の塗り絵を掲示し、ホームの取り組みを紹介している。敬老会では、保育園児の太鼓演奏やボランティアの方が大正琴を披露して下さいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から、町内を散歩したり、町内行事に招待を受け、ほとんどの利用者が参加している。徐々に地域の方々の理解も得られてきていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施した行事や予定している行事の報告を行い、何かいいアイデアはないかを会議の中で意見を聞いたりして、できるだけサービス向上につなげていけるようにしている。	19時からの会議で、和やかな会議となっている。家族の参加を増やす取り組みも行われ、敬老会と運営推進会議を一緒に開催した。地域と家族との交流を図る事ができ、参加者の方々にも好評だった。会議風景を写真に撮り、議事録も詳細に残している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的とはいかないが、市町村の担当者とは、日頃から連絡を取ったり、必要に応じて協力し合っている。	運営推進会議の時に取り組み状況を報告し、市の方からも感染症対策などのアドバイスを頂いている。更新時等に窓口を訪問し、挨拶をしている。区分変更の時はケアプランを持参し、状況報告を行っており、不明点を相談した時は、親身に対応して下さいました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという前提で、職員会議やケアの実際の中で、その都度スタッフが考えるようにしている。	職員間で勉強会を行い、“言葉遣い”も虐待に繋がる事の再確認が行われた。家族には、身体拘束を行わない事や日々の見守り等に努める事を伝え、予測されるリスクも説明している。業務優先にならないように、職員がゆとりを持って支援できる方法の検討を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会行ったりして、日頃から全身状態の確認や気付いたことをその都度報告し、スタッフ間で話し合っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進介護を利用して、地域包括支援センターから講師を依頼し、『成年後見制度』の講義を受けた。	入居時に制度の説明をしている。成年後見制度を利用している方もおられ、後見人の方が運営推進会議にも参加して下さっている。入居後も、ホーム長や専務が制度の必要性の検討を行い、必要に応じて福祉事務所を紹介する等の支援も行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、説明をして、ご理解いただいていると思う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などを利用し様々な意見を聴くようにし、できるだけ反映できるようにしている。	職員全員、“笑顔で挨拶”を意識している。家族に近況報告を行いながら、「ご要望は無いですか？」と尋ねている。「もう少し歩けるように」と言う希望も聞かれ、計画にも反映している。散歩の時に家族とお会いしたり、行事の時に家族の方にも楽しんで頂き、訪問しやすい雰囲気を作られている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から、できるだけ様々な意見が聞けるような場を設けるようにはしている。	両ユニット合同の全体会議で勉強会を行い、申し送り後のミーティング時にも意見交換をしている。職員の個人面談も行われ、毎年の事業計画の中で職員個々の目標を掲げている。ケアセラピーの資格取得に向けた取り組みも行われた。	職員個々の『評価表』を作り、自己評価・他者評価を実施する予定である。研修参加の機会を増やし、キャリアアップの内容を明確にする事で、モチベーションの維持・向上に繋げると共に、職員間のチームワークを強化していきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ努めていると思う。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	特に年齢や性別等で採用を断ることは無く、そのスタッフが利用者の立場に立つ力量を重視している。希望休を優先し、社会参加などもできる環境を整備している。	採用時は真に持っている人間味(人への優しさ)を大切にしている。採用後に職員個々の能力やタフを見定め、“出会った以上は、この縁を繋いでいく”と言う思いで、職員個々のお力を発揮してもらっている。介護が初めての方もおられ、職員のためのマニュアルを作り、職員に渡している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃より、ケアを通して人権・尊厳についての啓発を促している。 毎月10日20日30日は『おもてなしの日』とし、特に言葉使いに注意するようになっている。	専務、ホーム長は、ご利用者の人権を尊重し、ご利用者の立場に立って、今を大切に・・・という事を自らが実践している。“プロの介護職として”と言う意識を持って関わり、根拠あるケアができるように勉強会も行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに応じ、研修などあれば参加していただくようにしている。そのためにも個々の『評価表』を作成し明確になるようにしていきたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	『八女筑後地区介護保険事業連絡協議会』『八女市地域密着型サービス連携会議』を通し、同業者間との情報交換や交流を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	精神・身体状況を勘案し、アセスメントシートなどで、情報収集を行ったうえで、利用者にとって最善の環境で受け入れられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の利用に至るプロセスを十分に把握し、これからホームでの生活を家族と共に協力し、ご家族からも安心される環境づくりに取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどが入所ということを決めた上で相談に来られることが多く、相談件数は少ないが、その状況をお伺いしたうえで対応するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフそれぞれが意識しながら関係づくりを行っている。例えばできそうなことは、お願いしたり、一緒に行ったりしており、無理強いをしないようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に面会時間・外出・外泊の制限は行わず、いつでも面会・外出等ができるようにしている。その時の状況をご家族から聞き、ケアに反映できるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や近所の方々が来られた時は、できるだけゆっくり過ごしていただけるような雰囲気作り、もてなしをしている。	ご利用者の友達が遊びに来られている。散歩の時には、地域の方から「元気ね」と声かけして下さり、地元の「よど祭り」や“八幡土曜余市”でも、知り合いの方と会話をされている。馴染みのお肉屋で大好きなコロッケを買われる方もおられ、家族の方とお墓参りに行かれたり、お手紙も届いてい	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切ににし、独りでおられる時は、スタッフが話しかけられたりして孤立しないような支援を心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にご家族へは『何かあったときは連絡ください』と声をかけ、町で会ったときでも気軽に話しかけたり、話しかけられたりしている。以前入所していたご家族の親せきの方が申し込みに来られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちの寄り添うことで把握し、何がこの方にとって必要かを考えながら検討している。家族に連絡し協力していただいている。	ケアセラピーの資格を取得した職員もおられる。業務内容の改善も行われ、ホーム長のアイデアで、日曜日を”ゆとりの時間”として、ご利用者とゆっくり過ごす時間が作られている。ご利用者同士の会話から“思い”を把握できる事もあり、職員間で情報共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントからの情報や入所後も本人や家族などから新たに以前のことなどをケアにつなげている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活状況を記録に残し、スタッフが把握し、それぞれの一日の過ごし方を支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か問題がある時は、その都度スタッフ間で検討し、毎月の手紙に近況報告で現状を伝え、意見や要望なども聞き、それを介護計画に反映できるようにしている。	自立支援を大切に、車いすへの移乗時や移動時、ご本人のできる事を発揮して頂いている。下ごしらえや食器洗い等の役割も担って頂き、リハビリや体操も計画に盛り込まれている。かかりつけ医や看護師からのアドバイスも頂いており、計画を基にケアを行い、職員間でケアの見直しを続けている。	今後も引き続き、面会時や電話の機会を通して、家族との“話し合い”の機会を作っていく予定である。ご利用者と家族の思いを反映した介護計画を作成していきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か気付いたことがあったときは、介護記録に※を付けたり、赤字で記入したりして、わかりやすくしている。そして、申し送りノート、ミーティングノートを活用し情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ馴染みの関係を大切にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	穏やかな地域環境のため、散歩などで四季を感じたりすることが出来ている。それに加え地域の方々から様々なご協力と、ご支援をいただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医を継続していただいている。何かあれば家族にれんらくしながら対応している。	2週に1回の往診や、歯科医からの口腔ケアを受けている方もおられる。職員や家族が通院介助を行い、受診結果の共有もできている。職員の観察力も高くなり、体調の変化は、ホーム長やリーダー、ホームの看護師に報告し、早期発見・早期治療に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医師の看護師に相談したり、スタッフに看護師の資格を持った者がいるので、その都度相談したりしてケアにつなげている。(週1回の看護師訪問も含め)		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活環境の変化により悪化するケースがあるため、利用者、家族、医師や医療連携関係者とも相談をし、早期退院を促している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合等の対応については、必ず説明し、同意を得ている。そして、そのような状況が見込まれる時に再びご家族等と話し合いを行っている。	「最期はここで」と希望される方も多い。24時間体制で往診(点滴や酸素療法等)も受けられ、看護師にも相談できる体制がある。終末期には家族を含めた話し合いが行われ、どこまで支援できるかを話し合っている。この2年間で2名の看取りケアが行われ、家族も一緒に誠心誠意のケアが行われた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者個々の想定できることに対し、マニュアルを数名分作成したり、発熱や転倒など、すべての利用者に対応できるようなマニュアルを作成し、急変時に対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフの防災機器設置場所、取扱い方法などを徹底していく。 避難誘導訓練時は、地域住民、家族などへの参加を呼び掛けを行っている。	ご利用者、家族、地域の方、消防署の方と訓練をしている。ご利用者の方にも消火体験をして頂き、避難時間も測定し、緊張感を持った訓練が行われている。消防団との協力体制もあり、新しい分団長もホーム内の見学をして下さった。災害時に備え、水や保存食、発電機などを準備してい	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉使いに注意していくということを全スタッフに促している。毎月10日、20日、30日を『おもてなしの日』として言葉使いを気をつける日としている。その場面、場面に応じた対応を心掛けるようにしている。配慮に欠けるような時は、スタッフ間で注意し合ったりするようにし、日頃より意識づけるようにしている。	専務やホーム長は、言葉の中に感謝の気持ちを込める事を伝えている。時に語尾が強くなる時は、ホーム長が注意している。今後も自ら反省する機会を作り、「自分だったら？」という視点で、振り返りを継続していく予定である。羞恥心に配慮し、同姓介助も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添うよう促している。そして訴えに耳を傾け、自己決定していけるような支援を目指している。場合によっては、業務優先になったりすることがあるので、スタッフ間で注意したり、利用者への配慮(利用者本位)を意識づけるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添うよう促している。そして訴えに耳を傾け、自己決定していけるような支援を目指している。場合によっては、業務優先になったりすることがあるので、スタッフ間で注意したり、利用者への配慮(利用者本位)を意識づけるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ等自分でできる利用者には、お任せしたり、確認したりして、その人らしいコーディネートを考えながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや下膳など、できる利用者には手伝っていただき、スタッフも一緒に行っている。旬の食材を使用し、季節感も一緒に味わっていただけるよう心掛けている。	ご利用者も買い物に行き、カートを押して下さる方もおられる。包丁でじゃがいもや玉ねぎの皮むきをして下さり、お米とぎもして下さる。職員も一緒に食べられており、ご利用者それぞれのペースで食事をされている。食欲旺盛な方が多く、3食手作りのお料理は、ご利用者の元気の源になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は日々把握している。摂取量の低下がみられるような時は工夫し、少しでも摂取していただけるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、希望者には歯科医による週一回の口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ利用者個々に応じた排泄介助を行っている。定時の声掛けや、それぞれの排泄パターンに合わせてトイレでの排せつに心掛けている。	排泄が自立している方もおられる。日中、布パンツで過ごして頂けるよう、パッドの必要性を含めて職員間で話し合い、意見交換を続けている。頻尿の方もおられ、ご本人の意思を尊重した見守りが行われている。ご利用者個々の排泄感覚を把握し、記録にも残している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には関しては、スタッフ間で特に気にかけている。できるだけ自然な排便ができるように常に話し合っている。(水分量・運動・牛乳・きな粉牛乳・コーヒー牛乳・オリーブオイルなど)それでも排便がないような時に緩下剤などを服用するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後より入浴を行っているので、その範囲内で利用者個々の希望に添うように心掛けている。その時間以外の希望があれば、その時の状況をみながら対応しているようにしている。	体調に留意しながら、ご利用者の希望(湯温や入浴時間)を大切にしている。入浴を好まれない方には無理強いせず、時間をずらして声かけしている。入浴時は会話を楽しみ、菖蒲湯や柚子湯等も楽しまれている。湯船が少し深いので、福祉用具を利用して安全な入浴を心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの習慣やライフサイクルを考慮したうえで安眠できるように配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より指示された副作用については、スタッフに申し送っている。特に緩下剤の調整は、スタッフ間、主治医と検討している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に応じて、その都度できるだけ対応している。利用者の新しい情報が入った時は共有するようにしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるような外出行事を行ったり、買い物と一緒にいたりしている。家族より外出や外泊の依頼があったときはスムーズな外出ができるように支援している。	ホームの前で日光浴を楽しまれている。田畑に囲まれたホームの周辺を散歩したり、自宅が近い方は自宅周辺のお散歩をしている。花見(桜・大藤・つつじ・秋桜など)も楽しまれ、買物にも出かけている。家族と野球観戦に行かれた方もおられ、お墓参りにも行かれている。NHKの筑後大会に家族が出演され、皆さんで応援する事ができた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から要望があれば、立替金から本人に渡し、使っていただけるようにはしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があったときは、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に生活音には注意している。利用者が不安になったり、混乱を招くような音、動きはしないように心掛けている。	リビングの天井は高く、大きな窓から周囲の田畑を眺める事ができる。リビングと台所が隣接しており、お料理をする職員と会話を楽しむ事もできる。リビングにはソファがあり、ご利用者同士で会話をしたり、テレビを見られている。掃除も徹底しており、換気も行い、感染症予防にも力を入れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに配慮し、他利用者との交流の場を作ったり、一人になりたいような時は、そのような時間も大切にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ持参していただけるように、入所時には伝えている。	和室と洋室がある。木の温もりを感じる事ができ、使い慣れたタンスや鏡台等を持ち込まれている。敬老会の時にプレゼントした低反発の枕を愛用している方や、野球観戦に行かれた方は、チケットやメガホン、選手のサイン等を大切に置かれている。洋服が大好きな方は、たくさんの洋服を持参している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者それぞれに『できること』『わかること』をスタッフが把握し、できるだけ自立した生活ができるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			